

Access



徒歩ルート

横浜駅(JR、相鉄、京急、市営地下鉄、東急、みなとみらい線)
西口より徒歩約10分。

バスルート

「市民防災センター前」より徒歩1分、「鶴屋町3丁目」より徒歩3分。

その他

駐車場はありませんので周辺の駐車場をご利用いただくか公共交通機関をご利用ください。

Official Movie



役立つ防災テクニック・幼児向け防災コンテンツ・消防音楽隊の取り組みを発信する『BOSENちゃんねる』



Information

横浜市
消防局
Twitter



横浜市民
防災センター
Facebook



横浜市民
防災センター
ホームページ



〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-7 TEL:045-411-0119



楽しく学んで
しっかり備える

横浜市民防災センター



横浜市消防局
YOKOHAMA FIRE BUREAU

FLOOR MAP

フロアマップ

2F

防災ライブラリー/VR自由体験コーナー

減災トレーニングルーム

火災シミュレーター

1F

BO
SAI
CAFE

地震シミュレーター

エントランス

授乳室

災害シアター

地震・火災体験ツアー

地震・火災体験ツアーでは、地震や火災の発災前の備えの大切さや、日頃から注意すること、発災後の行動を学ぶことができます。



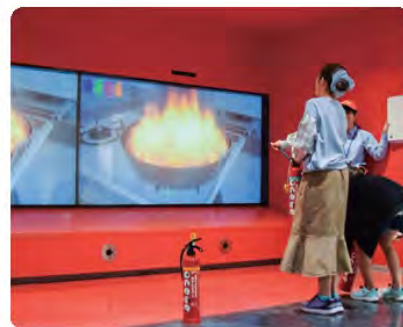
災害シアター

横浜に起こりうる災害を臨場感あふれる映像で身近に体験できます。



地震シミュレーター

最大震度7の揺れが体験でき、過去の地震、戸建住宅や超高層ビルの揺れなど、様々な揺れが体験できます。車いすの方も体験可能です。



火災シミュレーター

消火器を使った消火体験と、煙からの避難行動を体験できます。煙体験は体に害のない煙を充填させ、外からも煙や避難の様子を見学できます。



減災トレーニングルーム

避難までの流れを疑似体験し、災害から身を守る行動を学びます。

Let's Learn!

横浜市民防災センターで学ぼう!

火災の原因

火災の原因はたばこ、放火、コンロ・食用油の過熱出火、ストーブ、ローソク・線香、電気器具・電気コードなど様々なものがあります。

寝たばこは絶対にしない、家のまわりに燃えやすいものを置かないなど、**「出火させない」「放火させない・させない」環境をつくること**が大切です。



煙の恐ろしさ

煙の中には色々な有害物質が含まれています。中でも発生量が多くあらゆる燃焼物から発生するのが一酸化炭素です。**焼死者の多くは、煙を吸い込み**一酸化炭素などの有害物質によって**意識が無くなったことによる逃げ遅れ**です。

煙の中の避難のポイント

走らず落ち着いて移動し、**煙を吸わないように、タオルやハンカチで鼻や口をおおう**。また、煙は上にたまりやすいので姿勢を低くして煙の層を避け、煙を多く吸う原因となるため、**むやみに大きな声を出したり、慌てて服がないこと**が大切です。



クイズ

火災に関する詳細な情報は右記の二次元コードからご覧ください。



Q1 火災が発生したときは、「火事だ!」と大きな声で叫んで、周囲の人へ知らせる!

また、必ず ① 番に通報しましょう。

出火直後で火がまだ天井に届いていない段階では ② が可能な場合があります。



Q2 〈消火器〉

③ を抜く。④ の先を持つ。⑤ を強く握る。

放射時間は約 ⑥ 秒、放射距離は ⑦ m 程度。

必ず避難経路を確認してから消火しましょう。

火が天井まで届いてしまっている場合は

消火はあきらめて、避難をしましょう。

避難をする場合は必ずドアを閉めて避難しましょう。



Q3 〈煙の進む方向〉

煙は ⑧ 方向より ⑨ 方向へ速く進みます。

火災時は姿勢を ⑩ くして煙を吸わないように避難しましょう。



答え

①119 ②初期消火 ③ピン ④ホース ⑤レバー ⑥15 ⑦7 ⑧上 ⑨下 ⑩低く

防災情報

住宅用火災警報器

火災の発生を警報音や音声でいち早く知らせるもので、全ての住宅に設置が義務付けられているものです。



定期点検の方法

- ✓ テストボタンを押す。
または引きひもを引っ張る。
- ✓ 警報音（ブザーや音声）を確認する→
警報音はすぐに止まる。

10年たったら取り換える

- ✓ 住宅用火災警報器は古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで火災を感知しなくなることがあるため、10年を目安に取り換える。

家具転倒防止対策

地震が発生したとき、ご自身やご家族の身を守るためには、家具の転倒防止対策を行うといった日ごろからの備えが大切です。転倒によるけがの防止だけではなく、避難経路をふさがないためにも家具の転倒防止対策は必要です。しっかりと固定しましょう。また、ボール式器具とストッパー式器具などを組み合わせて使うことで効果がUPします。



風水害体験ツアー

風水害体験ツアーでは、風水害の怖さや、避難のタイミングなどを知っていただくことができます。



減災トレーニングルーム

プロジェクションマッピングで大雨や洪水の体験や、AR機器（拡張現実）を活用し、「今いる場所が浸水したらどうなるのか」を視覚で確認します。



災害シアター

風水害時に必要な、情報収集の方法や警戒レベルについて映像で学習します。



マイ・タイムライン作成

一人ひとりの風水害時の避難行動をあらかじめ計画し、災害発生時に的確な避難行動がとれるようにマイ・タイムラインを作成します。

Let's Learn!

横浜市民防災センターで学ぼう!

風水害警戒レベルとは

集中豪雨や台風などによって、水害や土砂災害などの災害が発生するおそれがあるとき、どの情報をもとに、どのタイミングで避難をするかなど防災情報の意味が理解でき、それぞれの状況に応じて、適切な行動ができるよう、**災害発生時の危険度と住民の方々がとるべき行動を5段階で示したものです。**

警戒レベルは、災害発生時の危険度が
高くなるほど数字が大きくなります。

警戒 レベル 5	緊急安全 確保	命の危険。直ちに安全確保
警戒 レベル 4	避難指示	危険な場所にいる人は全員避難
警戒 レベル 3	高齢者等 避難	危険な場所から高齢者等は避難
警戒 レベル 2		ハザードマップなどで避難行動を確認
警戒 レベル 1		災害への心構えを高める

避難とは「難」を「避」けることであり安全を確保することです。**避難場所に行くことだけが避難行動ではありません。**災害時に自宅で安全を確保できる場合には、在宅避難に努めてください。また、行政が開設する避難場所だけでなく、安全な親戚や友人宅も避難場所としておくなど事前に避難行動や避難場所を検討しましょう。

ハザードマップとは

ハザードマップとは、自分の住んでいる地域や学校周辺などで台風・大雨といった災害が起こったときに、**どこにどのような危険があるか、また、災害が起こった場合はどこに避難したら良いのか**という情報を地図上にまとめたものをいいます。

詳しくはこちらを
ご覧ください。



クイズ

Q1 危険な場所にいる住民が
「全員避難」する警戒レベルは、
① _____ である。



Q2 高齢者や避難に時間がかかる人が
避難を開始するのは、
② _____ である。



Q3 警戒レベルは1段階ずつ上がっていく。
○か×か? ③ _____

Q4 ハザードマップは災害が起こる前に
確認するものである。○か×か? ④ _____

答え

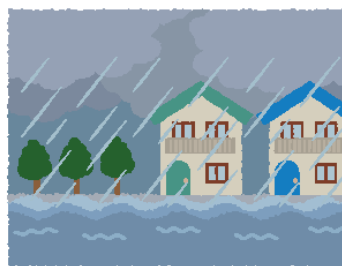
○①×②×③○④

風水害時の避難情報

避難のサイン

河川氾濫の危険

テレビ、ラジオ、横浜市HPなどで気象情報を確認する。



土砂災害の危険

小石がパラパラ落下、斜面に湧水が発生、斜面に亀裂が発生など。



避難行動

水平避難 (立退き避難)



安全な場所へ避難

(指定緊急避難場所等の避難場所や親戚の家など)

垂直避難



頑丈な建物の2階以上または、
近隣の高い建物へ避難

危険性に応じた避難行動をとりましょう

お役立ち情報

河川氾濫
情報



わいわい
防災マップ



災害時に必要なもの

備蓄品

地震の後、ライフライン(電気、水道、ガス)が止まったときに備えて家などに蓄えておくものです。(最低3日分)



飲料水(1人3日分で9ℓ目安)、食料品、トイレバック(1人3日分で15個程度)・・・等

非常持出品

避難時にすぐに持ち出せる必要最低限のもの。



懐中電灯、携帯ラジオ、貴重品、常備薬、身分証明書、現金・・・等



災害発生直後は食料や日用品の購入が難しくなります。



備蓄する量の目安は最低3日分、できれば1週間分です。



家族構成や生活スタイルに合わせて、食料や日用品を少し多く買い備えて、備えたものを順番に使いながら新たに買い足していく循環型備蓄(ローリングストック)という考え方もあります。

慌てないための備え

非常持出品をを考えてみよう！

-
-
-
-
-
-

集合場所

① ▶

② ▶

③ ▶

連絡方法を考えてみよう！

連絡手段 ▶

▶

▶

連絡先① ▶

連絡先② ▶

連絡先③ ▶

避難場所

自宅からの避難経路 ▶

避難場所① ▶

避難場所② ▶

詳しい情報は
こちらから！

横浜市
防災情報
Eメール



Yahoo!
防災速報



NHK
ニュース・
防災アプリ



横浜市
避難ナビ



その他の施設

リアル～



防災ライブラリー／ VR自由体験コーナー

災害への備え、災害発生時及び災害発生後に活用できる情報等が掲載されています。防災情報や、VR体験、通報訓練などができます。



BOSAI CAFE



BOSAI CAFEでは、飲食をしながらおくつろぎいただけます。また防災、災害に関するパネルの展示等もを行っています。



体験プログラム

こちらは30分～60分で緊急時や災害時に役立つ知識を身につけることができる6種類のプログラムです。

災害時に役立つワークショップ

身近にある新聞紙やチラシ・ゴミ袋などを使って、避難所等で役立つ防災スリッパや食器などの作り方を学びます。



コミュニケーションボード

絵や記号などが記載されているコミュニケーションボードを使用し、意思伝達の方法を学びます。



水災害体験

集中豪雨などで住宅地等が浸水した時の扉にかかる水圧や強い水流の中の歩行を体験し、早期避難の大切さを学びます。



避難所課題解決ゲーム

震災時の避難所で起こりえる様々な課題解決方法についてグループで話し合い、避難所を運営するときの基本的な知識を学びます。

みんなぜひ体験してくれよな！



詳しくはホームページをご覧ください。



災害時要援護者体験

身体の動きや機能が制限された状態を疑似体験し、災害時において支援する場合の注意点を学びます。



防災講話

地震・火災・風水害のいずれかを選択していただき、その災害に関する知識や役に立つ行動を講義形式で学びます。



広告 1 2 枠

広告 1 2 枠

広告 1 2 枠

広告 1 2 枠